

# I . 総括研究報告

# HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究

主任研究者 今井光信

(神奈川県衛生研究所)

## 総括研究報告

### 目的

本研究班は、保健所や医療機関における HIV 検査・相談の機会を活用して、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV 検査・相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究等、3 課題の研究を行った。

### (分担研究者)

加藤真吾 (慶応義塾大学医学部)	川畑拓也 (大阪府立公衆衛生研究所)
木村和子 (金沢大学医薬保健研究域薬学系)	小島弘敬 (東京都南新宿検査・相談室)
佐野貴子 (神奈川県衛生研究所)	澤田幸治 (北海道立衛生研究所)
杉浦 互 (国立感染症研究所エイズ研究センター)	立川夏夫 (国立国際医療センター)
玉城英彦 (北海道大学大学院)	中瀬克己 (岡山市保健所)
日野 学 (日本赤十字社血液事業本部)	松浦基夫 (特定非営利活動法人 CHARM)
矢永由里子 ((財) エイズ予防財団)	吉田靖子 (東京都健康安全研究センター)

### (協力研究者)

高山義浩 (佐久総合病院)	相楽裕子 (横浜市立市民病院)
岩室紳也 ((社) 地域医療振興協会)	伊藤 章 (国際医療福祉大学病院)
大林民典 (東京都立駒込病院)	角野文彦 (滋賀県東近江保健所)
小泉京子 (東京都江戸川保健所)	清水茂徳 (ライフ・エイズ・プロジェクト)
堀 成美 (東京都立駒込病院)	草田 央 (ライフ・エイズ・プロジェクト)
潮見重毅 (栃木県県南健康福祉センター)	今井敏幸 ((財) エイズ予防財団)
伊藤麻里子 (特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター)	岳中美江 (特定非営利活動法人 CHARM)
川添昌之 (特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター)	星野慎二 (かながわレインボーセンター SHIP)
矢川幸子 (特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター)	浦尾充子 (千葉大学附属病院)
市川誠一 (名古屋市立大学)	橘とも子 (国立保健医療科学院)
鬼塚直樹 (カリフォルニア大学)	鳥海一浩 ((株) エスアールエル)
澤畑一樹 ((株) 三菱化学メディエンス)	赤枝恒雄 (赤枝六本木診療所)
井戸田一朗 (しらかば診療所)	岩澤昌彦 (岩澤クリニック)
上村 哲 (上村病院)	江畑貴文 (文化村通りクリニック)
大國 剛 (大國診療所)	大里和久 (大里クリニック)
大原宏樹 (新宿山の手クリニック)	尾上泰彦 (宮本町中央診療所)
尾関全彦 (尾関皮膚泌尿器科)	上村茂仁 (ウイメンズクリニック・かみむら)
小林米幸 (小林国際クリニック)	鷺山和幸 (さぎやま泌尿器クリニック)
島尾忠男 (水道橋三崎町クリニック)	白川裕一 (八重洲山の手クリニック)
立山啓悦 (ひろクリニック)	谷口 恭 (すてらめいとクリニック)
多和田俊保 (たわだ泌尿器科)	西大條文一 (北新宿同仁斎メディカルクリニック)
西原 仁 (関内マリクリニック)	根岸昌功 (ねぎし内科診療所)
保科真二 (保科医院)	山口眞澄 (池袋山の手クリニック)
山中 晃 (新宿東口クリニック)	吉尾 弘 (吉尾産婦人科医院)
阿部幸史 (仙台市衛生研究所)	原 孝 (茨城県衛生研究所)
篠崎邦子 (千葉県衛生研究所)	菊池好則 (埼玉県衛生研究所)
野口有三 (横浜市衛生研究所)	高橋 要 (山梨県衛生公害研究所)
皆川洋子 (愛知県衛生研究所)	坪内 彰 (福井県衛生環境研究センター)
吉村幸男 (兵庫県立健康環境科学研究センター)	池田義文 (広島市衛生研究所)
大瀬戸光明 (愛媛県立衛生環境研究所)	千々和勝己 (福岡県保健環境研究所)
近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)	

## 研究要旨

本研究班は、保健所や医療機関における HIV 検査・相談の機会を活用して、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV 検査・相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究、等の 3 課題に関して下記の研究を行った。

### (1) HIV検査・相談の機会の拡大に関する研究

- ① 「HIV検査・相談マップ」による情報提供とその活用に関する研究  
ホームページ「HIV検査・相談マップ」により最新のHIV検査情報を提供するとともに、そのアクセス状況から広報効果や受検者のニーズ解析を行った。
- ② 保健所等HIV無料検査に関する全国調査（2007年）  
保健所および特設無料検査施設で実施されているHIV検査相談の現状を把握し、その充実を計るため昨年引き続きアンケート調査を行い、結果を解析した。
- ③ クリニック等における即日検査の普及とその効果のモニタリング  
HIV即日検査を実施する研究班の協力クリニック（有料）を25ヶ所に拡大し、その支援と受検者動向の解析を行った。
- ④ 医療機関におけるHIV検査相談体制に関する研究  
医療機関におけるHIV検査・相談に関して、国内外の状況を比較すると共に、日本で無料即日検査を実施している拠点病院において、その効果と課題を明らかにした。
- ⑤ HIV検査と同時に行う他のSTI検査に関する研究  
東京都南新宿HIV検査相談室において梅毒、クラミジア、B型肝炎等のSTI検査を試験的に導入し、それらSTIの感染状況や相互の関連等を検討した。
- ⑥ HIV 郵送検査の実態調査とその検査精度に関する研究  
受検者数が急速に増加しつつある HIV 郵送検査に関して、アンケートによる実態調査を行うと共に、残余検体を用いた再検査により、検査精度の調査を行った。
- ⑦ 自己診断キットの実態調査  
Web 上で入手可能な自己診断キットを実際に入手し、その実態を調査した。
- ⑧ 唾液検査による HIV 検査相談機会の拡大に関する研究  
民間協カクリニックにおいて、唾液を用いた HIV 抗体迅速検査を試験的に導入しその性能を評価するとともにその効果を検討した。
- ⑨ 日赤における HIV 対策と保健所等における HIV 検査相談の連携に関する研究
- ⑩ かながわレインボーセンターSHIP における STD 検査の支援と解析  
2007 年 9 月から横浜駅西口に解説した MSM を対象とする検査相談事業において、HIV、梅毒、HBs 抗原の迅速検査の支援を行い、結果を解析した。

### (2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究

- ① HIV 検査・相談を担当する人材育成のための研修およびそのガイドラインの作成  
基盤となる基本研修のガイドライン（プログラム、資料を含む）を作成した。
- ② HIV 検査陽性者を発端としたパートナーマネージメントに関する研究

### (3) 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究

- ① 濾紙を用いたドライスポット法による HIV 抗体検査および遺伝子検査の検討  
郵送検査等に多く用いられている濾紙を用いたドライスポット法の検討の結果、血液による検査とほぼ同等の感度で検出が可能なが分かった。
- ② HIV 抗体量から感染時期を推測するための抗体検査法の検討  
凝集法（PA）と BED 法の検討を行い、抗体量から感染時期を推定する検査法の妥当性の検討を行い、また、新規陽性者の両法による感染時期の解析を行った。
- ③ HIV-1RNA 定量キットのコントロールサーベイを行い、必要な技術支援を行った。
- ④ HIV 検査担当者を対象に技術研修を行い、HIV 検査技術と新知識の普及に努めた。

## A. 研究目的

本研究班は、保健所や医療機関における HIV 検査相談の機会を活用して、HIV 感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計るため、(1) HIV 検査相談機会の拡大に関する研究、(2) 相談・カウンセリングの質的向上に関する研究、(3) HIV 検査技術の開発・改善・導入・普及等に関する研究、等の 3 課題の研究を行った。(図 1)

## B. 研究方法および結果

### (1) HIV 検査相談の機会の拡大に関する研究

①ホームページ“HIV検査・相談マップ”を用いたHIV検査相談機関の情報提供とメディア等の影響のモニタリングに関する研究 (図2-5)

当研究班では、保健所等検査機関における HIV 検査に関する最新情報や HIV 検査に関する知識の提供を目的としたホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.hivkenssa.com>)をPCサイトおよび携帯電話サイトに設置している。PC版サイトは2001年9月の開設以来、年々そのアクセス数は増加しており、2007年末の総アクセス数は400万件、2007年の年間アクセス数は90万件に達した。また、携帯電話版サイトの12月末までの総アクセス数は100万件、2007年の年関すアクセス数は40万件に達しており、携帯電話番サイトの利用も急速に増加しつつあることが分かった。2008年1月の献血におけるHIV陽性者数が102名と過去最高であったとの報道では、HIV検査相談マップのアクセス数が一日で20,000件に達し、HIVに関するメディア等の報道がどのようなインパクトや影響を与えるかを、HIV検査への関心の観点からモニタリングできるサイトとしても有効であることが分かった。

(詳細は分担研究報告ホームページ“HIV検査・相談マップ”を用いたHIV検査相談機関の情報提供とメディア等の影響のモニタリング

に関する研究 嶋 貴子 他 参照)

②HIV検査相談に関する全国保健所等アンケート調査 (図6-17)

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象とした HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を昨年引き続き実施した。

今回の全国保健所アンケート調査においては、対象とした 618 箇所の施設（保健所及びその支所等）の 568 (92%) 施設から回答を得ることができた。

アンケート結果では、平成 19 年の 1 年間に、回答の得られた 566 施設で、117, 521 件の HIV 検査が実施され、279 例 (0.24%) が陽性であった。この 279 例の陽性例の中で、264 例 (95%) が保健所等に再来所して陽性の結果を受け取っており、また、その中の 223 例 (80%) については、その後医療機関に受診していることが分かった。また、確認検査の陽性例に関して感染症法の届け出に関しては、平成 19 年に陽性を経験した 130 施設中の 88 施設 (68%) で報告が行われており、32 施設 (25%) では紹介先の医療機関に届け出が依頼されていることが分かった。

即日検査の実施状況に関しては、平成 19 年に即日検査を実施した保健所は 327 施設 (58%) に達しており、保健所等の HIV 検査相談における即日検査は昨年に比べさらに普及が進み、定着しつつあることがわかった。また、一施設あたりの受検者数は即日検査実施施設および夜間検査や休日検査の実施保健所において特に多くなる傾向がみられた。

なお、HIV 検査相談の結果返しにおいて、重大な問題に繋がった事例はなかったが、一旦は誤った HIV 検査結果が伝えられた事例や性感染症検査の結果をその検査を受けていない人に結果返しをしかけた事例等、重大な結果に繋がりがかねない事例が 2 例あったことが分かった。

(詳細は分担研究報告「HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H19年度)」  
今井光信 他 参照)

#### ③ クリニック等における即日検査の普及とその効果のモニタリング (図8-23)

2007年には、25ヶ所の協力民間クリニックにおける即日検査(有料)を支援しており、その検査合計数は16,387件、陽性は74件で陽性率は0.5%であった。男女別では、男性の陽性率は0.6%、女性の陽性率は0.1%であった。

陽性例74例中、65例(88%)が確認検査の結果を受け取っており、24例(37%)は自施設で経過観察、31例(48%)は紹介先拠点病院に受診したことが確認されていた。

これら協力クリニックにおけるHIV即日検査は有料にもかかわらず多くの受検者が検査を受けており、検査希望者にとって、検査を受けやすい機関の一つとして評価されていることから、今後もこれら協力クリニックとの連携を強化するとともにその受検者動向のモニタリングを継続して行くことが重要と思われる。

(詳細は分担研究報告「HIV検査機関における即日検査の実施状況およびその効果」  
嶋貴子 他 参照)

#### ④ 医療機関におけるHIV検査相談体制に関する研究 (図24-30)

HIV検査機会の普及・拡大のため、医療機関の果たし得る役割は非常に大きいと考えられるが、その一方で一般医療機関におけるHIV検査で陽性と分かった際に十分な説明がなされないため問題となるケースも多く報告されている。このため、外国における状況を検討するとともに、医療機関において医療者が陽性の告知前に確認しておくべき事項や告知時に確実に伝えるべき事項等について、国立国際医療センターでの事例を中心に整理した。(詳細は分担研究報告「医療施設における提供者主導のHIV検査とカウンセリング」  
玉城英彦 「医療機関における検査相

談体制—抗体陽性者への対応—」  
立川夏夫 参照)

また、長野県において実施されている拠点病院の無料迅速検査の受検者動向の調査結果や佐久総合病院での取り組みの結果を踏まえ、それぞれの地域において、それぞれの地域の特性に合わせた情報提供や検査相談体制が必要なことを明らかにした。(詳細は「長野県佐久地域におけるHIV/AIDS発生動向と対策」  
高山義浩 参照)

#### ⑤ HIV検査と同時に行う他のSTI検査に関する研究 (図31-37)

東京都南新宿HIV検査・相談室において梅毒、クラミジア抗体、クラミジア抗原、B型肝炎抗原と抗体等のSTI検査を試験的に導入し、それら検査結果間の相関や、HIV感染リスクとの関連等を解析し、STIの検査結果がHIV検査相談において、より効果的な説明相談の有力なツールを提供することを明らかにした。(詳細は分担研究報告「特別検査施設(南新宿検査相談室)の受検者についてのHIVとSTDとの関連」  
小島弘敬 他 参照)

#### ⑥ HIV郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (図38-41)

HIV 郵送検査の現状を明らかにするため、昨年に引き続き、郵送検査会社8社を対象にアンケート調査を行い、また、協力の得られた郵送検査会社の残余検体を用いた再検査により検査精度の検証を行った。HIV 検査の受検費用は2,625円から7,950円で、検査にかかる日数は1~14日であった。検査結果の通知は郵送が中心であり、検査結果が陽性の場合には、病院での受診を勧める説明文を同封していた。2007年の郵送検査の受検総数は44,384件で陽性(スクリーニング検査)は220件であった。また、検査精度の調査では、今回の再検査では結果は全て一致した。

(詳細は分担研究報告「HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査」  
須藤弘二 他 参照)

### ⑦自己診断キットの実態調査 (図 42)

HIV 自己診断キットは日本や米国では承認されていないが国際的に流通していること、また、昨年の調査でこれらキットが数多くの問題を有していることが明らかになったため、本年もまた、HIV 自己検査キットの日本における流通実態を調査した。日本語で HIV 自己検査キットを扱う 24 サイトから昨年と重複しない上位 8 サイトを選びキットの購入を行い調査した。今回の調査でも説明不足や、誤情報、触法行為など、様々な問題が明らかとなり一般人の入手・使用は控えるべきであることが明らかとなった。(詳細は分担研究報告「HIV 自己診断キットの実態に関する研究」 木村和子 他 参照)

### ⑧唾液検査によるHIV検査相談機会の拡大の可能性に関する研究 (図 43-47)

HIV 検査相談機会の拡大に繋がる可能性のある方法の一つとして、唾液による抗体迅速検査を、協力民間クリニックにおいて血液による迅速検査と同時に実施し、その性能を評価するとともに、受検者へのアンケート調査により、唾液検査への受検者の評価を調査した。今回用いた唾液検査キットの特異性は血液の抗体検査キットとほぼ同様であり、未治療の HIV 感染者に関しては調べた範囲では皆陽性であったが、HAART 治療中の HIV 感染者では陰性となる例がみられるなどその検出感度についてはさらに検討を要することが分かった。受検者へのアンケート調査からは唾液検査を希望する受検者が 70%と多く、将来検査の信頼性が担保されれば HIV 検査相談機会の拡大に繋がる可能性が示唆された。(詳細は分担研究報告「血液を用いない検査法(唾液検査)による HIV 検査相談機会の拡大の可能性に関する研究」 佐野(嶋) 貴子 参照)

### ⑨日赤におけるHIV対策と保健所等におけるHIV検査相談の連携に関する研究(図 48-53)

日赤ではウイルス感染症対策として、各種感染症の血液検査に加え、問診、献血歴の照会、本人確認等の強化を行っているが、ウインドウ

期の献血の可能性が残るため、100%の安全確保は困難となっている。本人確認の強化や問診の強化等の実施により 2005 年には献血者における HIV 検査陽性件数が一旦減少したがその後は再び増加傾向に転じ、特に大阪地区など関西での増加が顕著なことが分かった。今後、それぞれの地域における HIV 対策に関して、日赤と保健所等が連携をより強化して取り組む必要のあることが分かった。

(詳細は分担研究報告「日赤における HIV 対策と保健所等の HIV 検査相談事業との連携」 日野学 他 参照)

### ⑩かながわレインボーセンターSHIPにおけるSTD検査の支援と解析(図 54-56)

2007 年 9 月から横浜駅西口に解説した MSM を対象とする検査相談事業において、HIV と梅毒、HBs 抗原の迅速検査の支援と解析を行った。(詳細は分担研究報告「かながわレインボーセンターSHIP における STD 検査」 星野慎二 他 参照)

#### (2) HIV 検査相談の質的充実に関する研究

### ①HIV検査陽性者を発端としたパートナーマネージメントに関する研究(図 57-59)

HIV 検査陽性者を発端としたパートナーマネージメント(陽性者のパートナーに対する検査を含めた健康管理へのはたらきかけ)に関して、諸外国での現状を調査するとともにエイズ学会におけるシンポジウム等の機会を活用して関係者による議論を深めその問題点を整理した。(詳細は分担研究報告「保健所における HIV 検査相談体制に関する研究」 中瀬克己 他 参照)

### ②HIV検査・相談の研修ガイドライン・マニュアルの作成(図 60-62)

HIV 検査相談の質の維持向上のためには、それぞれの職場における質の高い研修が必須である。本年度はこれら研修に積極的に取り組んでいる NPO 法人の事例やエイズ予防財団での取り組みを基に、HIV 検査相談担当者への研修ガイドラインの位置づけと枠組みとを明確にし、

その基盤となる基本研修に関して、その説明用スライドや説明内容を含めたガイドラインを作成した。

(詳細は分担研究報告「NPOによるHIV検査相談体制と研修体制」 松浦基夫 他、「HIV検査相談の担当者を対象とした研修ガイドラインの作成」 矢永由里子 他 参照)

### ③各地域における取り組み (図 63-72)

北海道、東京都、埼玉県、愛知県、大阪府等各地域におけるHIV検査相談への取り組みについて調査し、それぞれの地域特性に関する研究を行った。(詳細は下記の各分担研究報告を参照。 分担研究報告「北海道におけるHIV即日検査の結果と感染状況」 澤田幸治、「東京都のHIV検査体制と検査結果の解析」 吉田靖子、「埼玉県におけるHIV検査体制と受検状況について」 菊池好則 「愛知県におけるHIV検査体制の解析」 皆川洋子、「福岡県におけるHIV検査体制と感染状況について」 千々和克己)

#### (3) HIV検査の質的充実に関する研究

### ①濾紙を用いたドライスポット法によるHIV抗体検査および遺伝子検査の検討 (図 73-76)

郵送検査等に多く用いられている濾紙を用いたドライスポット法の検討の結果、抗体検査、遺伝子検査ともに、濾紙から回収した血液による検査で、濾紙に吸着前の血液を用いた時とほぼ同等の感度で検出が可能なが分かった。(詳細は分担研究報告「濾紙を用いたドライスポット法によるHIV検査法の検討」 宮崎裕美 他 参照)

### ②HIV抗体量から感染時期を推測するための抗体検査法の検討 (図 77-79)

凝集法(PA)とBED法の検討を行った結果、PA法は感染後2-3月以内と早い時期の推定に、また、BED法では感染後3-4ヶ月以内および5-6ヶ月以内とやや長い時期の推定に使用可能なが分かった。今後さらに推定時期の妥当性の検証を重ねるとともにこれら推定法を用いて、HIV検査新規陽性例において感染時期の推定を行いそのモニタリングを継続し

て行う予定である。

### ③HIV-1 RNA 定量キットのコントロールサーベイ (図 81-82)

HIV感染者の治療および病態把握に有用なアンプリコアHIV-1モニターv1.5およびコバスHIV-1モニターv1.5について、これらキットを使用している検査研究機関を対象に、施設間での測定値の差を是正することを目的に測定精度のコントロールサーベイを実施した。参加案内状を送付した53施設中31施設がコントロールサーベイに参加し、コントロールサーベイの結果、測定値が許容範囲から外れる結果が4施設で6例見られたが、いずれも検査頻度が非常に少ない施設であった。

これら施設には、測定行程の確認と追加のフォローアップサーベイへの参加を推奨し、技術の向上を支援した。

(詳細は分担研究報告「HIV-1 RNA 定量キットのコントロールサーベイ」 加藤真吾 他 参照)

### ④HIV検査技術の技術研修と普及 (図 82-84)

全国の衛生研究所等の施設においてHIV検査を担当する技術者を対象に、HIV薬剤耐性やHIV-1、HIV-2の検査法に関する技術講習会を開催し、HIV検査技術の普及とその向上を計った。

(詳細は分担研報告「HIV検査技術の技術研修と普及」 杉浦互 参照)

## C. 考察および結論

本研究班では重要課題として、①HIV検査相談の機会の拡大に関する研究、②相談カウンセリングの質的充実に関する研究、③HIV検査技術の質的向上に関する研究の3課題の研究に取り組んでいる。本年度は、HIV検査相談機会の拡大に関する研究課題に関しては、即日検査や休日・夜間検査など利便性の高い検査相談体制が、保健所等のHIV検査相談に着実に普及し定着しつつあること、また、その結果として、保健所等におけるHIV検査相

談の受検者数・陽性者数が着実に増加しつつあることが確認できた。また、有料ではあるが、当研究班の協力民間クリニックにおける HIV 検査の受検者数も年々増加しており、全国 25 ヶ所の協力民間クリニックでの受検者数の合計は 16,387 件、陽性数 74 件に達しており、有料ではあるが HIV 検査体制の一翼を担う重要な役割を果たしていることが分かった。また、年々利用者が増加している郵送検査に関しても、平成 19 年には年間 44,384 件に達しており、当研究班では、今後とも継続的にその実態把握を行うと共に、検査精度の評価も継続して実施する予定である。

相談カウンセリングの質的充実に関する研究に関しては、本年度は、HIV 検査相談担当者向け研修の基本となるコア研修に関するガイドラインの作成を行った。次年度は、これらガイドラインを用いた研修を行うとともに、さらに応用編のガイドラインを作成し、HIV 検査相談の質的充実の鍵となる検査相談担当者の人材育成の支援とその効果の評価を行う予定である。HIV 検査技術の質的向上に関する研究に関しては、唾液検査法、濾紙を用いた血液のドライスポット法、感染時期を推定するための抗体検査法 (PA 法 BED 法) 等、新たな検査法の検討を行いその有効性と問題点を明らかにした。以上、本年度は、最重点課題とした 3 分野において、それぞれ着実に進展がみられた。

#### <分担研究報告の一覧>

- ◆ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談機関の情報提供とメディア等の広報効果のモニタリング (佐野(嶋)貴子)
- ◆HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査(H19 年度) (今井光信)
- ◆HIV 検査機関における即日検査の実施状況およびその効果 (佐野(嶋)貴子)
- ◆医療施設における提供者主導の HIV 検査と

カウンセリング (PITC) (玉城英彦)

- ◆医療機関における検査相談体制 - 抗体陽性者への対応 - (立川夏夫)
- ◆長野県佐久地域における HIV/AIDS 発生動向と対策 (高山義浩)
- ◆特設検査相談施設の受検者についての HIV と STD との関連 (小島弘敬)
- ◆HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (須藤弘二)
- ◆HIV 自己検査キットの実態調査 (木村和子)
- ◆血液を用いない検査法 (唾液検査) による HIV 検査相談機会の拡大の可能性に関する検討 (佐野(嶋)貴子)
- ◆日赤における HIV 対策と検査相談との連携 (日野 学)
- ◆「かながわレインボーセンターSHIP」における STD 検査 (星野慎二)
- ◆保健所における検査相談体制に関する研究 (中瀬克己)
- ◆NPO による HIV 検査相談体制と研修体制 (松浦基夫)
- ◆検査・相談 担当者対象の研修ガイドライン (矢永由里子)
- ◆北海道における HIV 即日検査の結果と感染状況 (澤田幸治)
- ◆東京都の HIV 検査体制と検査結果の解析 (吉田靖子)
- ◆埼玉県保健所と衛生研究所における HIV 検査実施状況 (菊池好則)
- ◆愛知県における HIV 検査結果の解析 (皆川洋子)
- ◆福岡県の HIV 検査体制と検査結果の解析 (千々和勝己)
- ◆ろ紙を用いたドライスポット法による HIV 検査法の検討 (宮崎裕美)
- ◆HIV-1 RNA 定量キットのコントロールサーベイ (加藤真吾)
- ◆HIV 検査技術の技術研修と普及 (杉浦互)



<発表論文リスト>

1. Hamatake, M., Nishizawa, M., Yamamoto, N., Kato, S., and Sugiura, W. A simple competitive RT-PCR assay for quantitation of HIV-1 subtype B and non-B RNA in plasma. *J. Virol. Methods* 142:113- 117, 2007.
2. Kinai, E., Hanabusa, H., and Kato, S. Prediction of the efficacy of antiviral therapy for hepatitis C virus infection by an ultrasensitive RT-PCR assay. *J. Med. Virol.* 79:1113- 1119, 2007.
3. Tajima, H., Sueoka, K., Moon, S. Y., Nakabayashi, A., Sakurai, T., Murakoshi, Y., Watanabe, H., Iwata, S., Hashiba, T., Kato, S., Goto, Y., and Yoshimura, Y. The development of novel quantification assay for mitochondrial DNA heteroplasmy aimed at preimplantation genetic diagnosis of Leigh encephalopathy. *J. Assist. Reprod. Genet.* 24:227- 232, 2007.
4. Nakabayashi, A., Sueoka, K., Tajima, H., Sato, K., Sakamoto, Y., Kato, S., and Yoshimura, Y. Well-devised quantification analysis for duplication mutation of Duchenne muscular dystrophy aimed at preimplantation genetic diagnosis. *J. Assist. Reprod. Genet.* 24:233- 240, 2007.
5. Tanaka, R., Hanabusa, H., Kinai, E., Hasegawa, N., Negishi, M., and Kato, S. Intracellular efavirenz levels in peripheral blood mononuclear cells from HIV-infected individuals. *Antimicrob. Agents Chemother.* 52(2):782- 785, 2007.
6. Kuji, N., Yoshii, T., Hamatani, T., Hanabusa, H., Yoshimura, Y., and Kato, S. Buoyant density and sedimentation dynamics of HIV-1 in two density-gradient media for semen processing. *Fertil. Steril.* (in press)
7. H Suzuki, M Fujino, M Matsuda, H Yan, Y Iwatani, W Sugiura. Effects of Protease and reverse transcriptase inhibitor-resistance mutations on integrase polymorphism in multidrug resistance cases. *Antiviral Therapy.* 12(1) S4, 2007.
8. J Shibata, F Ren, M Nishizawa, M Fujino, Y Iwatani, M Matsuda, H Miura, H Tanaka and W Sugiura. Interference between Gag non-cleavage site mutation P453L and HIV-1 protease non-drug resistance mutation E35D. *Antiviral Therapy.* 12(1) S143, 2007.
9. Okuma K, Tanaka R, Ogura T, Ito M, Kumakura S, Yanaka M, Nishizawa M, Sugiura W, Yamamoto N, Tanaka Y. Interleukin-4-Transgenic hu-PBL-SCID Mice: A Model for the Screening of Antiviral Drugs and Immunotherapeutic Agents against X4 HIV-1 Viruses. *J Infect Dis.* Jan 1;197(1) 134-41, 2008.
10. Saeng-Aroon S, Yoshida LM, Ariyoshi K, Taguchi M, Pathipvanich P, Rojanawiwat A, Matsuda M, Kannagi M, Sawanpanyalert P, Sugiura W, Auwanit W. An Efficient Tool for Surveying CRF01\_AE HIV Type 1 Resistance in Thailand to Combined Stavudine-Lamivudine-Nevirapine Treatment: Mutagenically Separated PCR Targeting M184I/V. *AIDS Res Hum Retroviruses.* Dec;23(12) 1461-8, 2007.
11. Satoh E, Li XK, Hara Y, Ogata K, Guo L,

- Kitazawa Y, Funeshima-Fuji N, Satoh T, Miyagi T, Sugiura W, Yamamoto N, Teramoto K, Arie S, Kimura H. Sensitization to enhanced green fluorescence protein minor histocompatibility antigen by gene transduction into dendritic cells and peritoneal exudate macrophages. *Transpl Immunol.* Nov;18(2) 73-84, 2007.
12. Iwatani Y, Chan DS, Wang F, Maynard KS, Sugiura W, Gronenborn AM, Rouzina I, Williams MC, Musier-Forsyth K, Levin JG. Deaminase-independent inhibition of HIV-1 reverse transcription by APOBEC3G. *Nucleic Acids Res.* 35(21) 7096-108, 2007.
13. Ode H, Matsuyama S, Hata M, Hoshino T, Kakizawa J, Sugiura W. Mechanism of drug resistance due to N88S in CRF01\_AE HIV-1 protease, analyzed by molecular dynamics simulations. *J Med Chem.* 19;50(8) 1768-77, 2007.
14. Chiba-Mizutani T, Miura H, Matsuda M, Matsuda Z, Yokomaku Y, Miyauchi K, Nishizawa M, Yamamoto N, Sugiura W. Use of new T-cell-based cell lines expressing two luciferase reporters for accurately evaluating susceptibility to anti-human immunodeficiency virus type 1 drugs. *J Clin Microbiol.* 45(2) 477-87, 2007.
15. K. Furuya, M. Omura, S. Kudo, W. Sugiura, H. Azuma. Recognition Profiles of microsporidian *Encephalitozoon cuniculi* polar tube protein 1 with human immunoglobulin M antibodies. *Parasite Immunology.* 30 13-21, 2008.
16. Mako Omura, Koji Furuya, Shinichi Kudo, Wataru Sugiura, Hiroshi Azuma. Detecting Immunoglobulin M Antibodies against *Microsporidian Encephalitozoon cuniculi* Polar Tubes in Sera from Healthy and Human Immunodeficiency Virus-Infected Persons in Japan. *Clinical and Vaccine Immunology.* 14(2) 168-172, 2007.
17. Afework Kassu, Masayuki Fujino, Masakazu Matsuda, Masako Nishizawa, Fusao Ota, Wataru Sugiura. Molecular Epidemiology of HIV-1 in Treatment Naïve Patients in North Ethiopia. *AIDS Research and Human Retroviruses* 23(4) 564-568, 2007.
18. Deforche K, Camacho R, Grossman Z, Silander T, Soares MA, Moreau Y, Shafer RW, Van Laethem K, Carvalho AP, Wynhoven B, Cane P, Snoeck J, Clarke J, Sirivichayakul S, Ariyoshi K, Holguin A, Rudich H, Rodrigues R, Bouzas MB, Cahn P, Brigido LF, Soriano V, Sugiura W, Phanuphak P, Morris L, Weber J, Pillay D, Tanuri A, Harrigan PR, Shapiro JM, Katzenstein DA, Kantor R, Vandamme AM. Bayesian network analysis of resistance pathways against protease inhibitors. *Infect Genet Evol.* 7(3) 382-90, 2007.
19. Shibata J, Yoshimura K, Honda A, Koito A, Murakami T, Matsushita S. Impact of V2 mutations for escape from a potent neutralizing anti-V3 monoclonal antibody during in vitro selection of a primary HIV-1 isolate. *J Virol.* 81 3757-3768, 2007.
20. 嶋 貴子、須藤弘二、近藤真規子、倉井華子、相楽裕子、今井光信. 蛍光酵素免疫測定法による新しい HIV 抗原抗体同時検出試薬 (第 4 世代) の検討. *感染症学雑誌.* 81(5):562-572, 2007.

21. 今井光信、嶋 貴子、須藤弘二、宮崎裕美、近藤真規子. HIV 検査相談体制について—HIV 即日検査の導入から普及まで—. 保健医療科学. 56(3):203-209, 2007.
  22. 立川夏夫. プライマリケア医が行う HIV/AIDS の診断と治療. クリニカルプラクティス 26(4) 284-291, 2007.
  23. 須藤弘二、嶋貴子、近藤真規子、加藤真吾、今井光信. Real-time PCR を用いた HIV-1 RNA 測定キットの基礎的検討. 感染症学雑誌、81:1-5、2007.
  24. 矢永由里子. 「PHA のメンタルサポートのセーフティネット構築に向けて：検査で陽性告知を受けた HIV 感染者をどう支援していくか」第 20 回日本エイズ学会シンポジウム記録. 日本エイズ学会誌 9(2) 120-124, 2007.
  25. 今井光信、中瀬克己、小島弘敬、加藤真吾、杉浦互、栗原健、白坂琢磨. HIV 検査および検査体制—技術の進歩と今後の課題. 日本エイズ学会誌 9(3), 202-208, 2007.
  26. 松田昌和、杉浦 互. HIV 薬剤耐性検査. モダンメディア別冊 53 (11) 319-322, 2007.
  27. 西澤雅子、杉浦 互. 薬剤耐性 HIV の抱える諸問題: Considerable Issues of Drug Resistance. The Journal of AIDS Research. 9(3) 197-201, 2007.
  28. 杉浦 互. 抗ウイルス薬耐性獲得のメカニズム— HIV. 月刊薬事 49(11) 31-36, 2007.
  29. 岩谷靖雅、杉浦 互. DNA マイクロアレイ法. (増刊号) 臨床と微生物. 34 479-481, 2007.
  30. 杉浦 互. 薬剤耐性化と対策. 薬剤耐性化. HIV の耐性化機序. 日本臨床 65 増刊号 2 487-492, 2007.
- ＜学会発表リスト＞
1. Takeshi Nishijima, Yoshihiro Takayama, Sachiko Ozawa, Kunihiko Okada: HIV Infections Proliferating in rural Japan. 11th Asian Congress of Agricultural Medicine & Rural Health. 22-24 Feb, 2008. Aurangabad, India.
  2. H Suzuki, M Fujino, M Matsuda, H Yan, Y Iwatani, W Sugiura: Effects of Protease and reverse transcriptase inhibitor-resistance mutations on integrase polymorphism in multidrug resistance cases. XVI International HIV Drug Resistance Workshop. Jun. 12-16, 2007, Barbados, West Indies.
  3. J Shibata, F Ren, M Nishizawa, M Fujino, Y Iwatani, M Matsuda, H Miura, H Tanaka and W Sugiura: Interference between Gag non-cleavage site mutation P453L and HIV-1 protease non-drug resistance mutation E35D. XVI International HIV Drug Resistance Workshop. Jun. 12-16, 2007, Barbados, West Indies.
  4. J Shibata, F Ren, M Nishizawa, H Tsang, Y Iwatani, M Matsuda, H Miura, H Tanaka, W Sugiura: Gag and Protease Interference Affect Acquisition and Selection of Resistance Viruses in Antiretroviral Treatment Failure Case. 8th Annual Symposium on Antiviral Drug Resistance. Nov. 11-14, 2007, USA.
  5. Wataru Sugiura: Drug Resistance assays. International Conference on Molecular and Cellular Biology of Therapeutics of HIV and Associated Viral Infections. Jan. 12-14, 2007, Hyderabad, India.
  6. 佐野(嶋)貴子、近藤真規子、須藤弘二、宮崎裕美、倉井華子、相楽裕子、岩室紳也、今井光信: 抗 HIV 抗体と HIV-1p24

- 抗原が同時検出可能な HIV 迅速検査試薬の検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 19 年 11 月 28 日-30 日, 広島)
7. 佐野 (嶋) 貴子: 在宅検査の現状と課題 - 郵送検査の現状と今後の課題 -. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム. (平成 19 年 11 月 28 日-30 日, 広島)
  8. 佐野 (嶋) 貴子、近藤真規子、今井光信: 妊婦集団における HIV スクリーニング検査の偽陽性出現率に関する調査. 第 62 回神奈川県感染症医学会. (平成 19 年 9 月 22 日, 横浜)
  9. 山中 晃、金子 恵、青木 眞、高 明志、山元泰之、福武勝幸、嶋 貴子、今井光信: 民間クリニックにおける即日検査の役割・診療所における HIV 迅速検査の現況報告. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム. (平成 19 年 11 月 28 日-30 日, 広島)
  10. 西島健、高山義浩: 佐久総合病院における外国籍患者の医療費未払い状況～アジア共生時代への課題～. 第 57 回日本病院学会総会. 2007. 6. 14-15. つくば.
  11. 高山義浩、西島健、小林智子、小澤幸子、岡田邦彦: 農村地域における HIV 感染の拡大について: 第 1 報 症例提示. 第 56 回日本農村医学会学術総会. 2007. 10. 11-12. 長岡.
  12. 西島健、高山義浩、小林智子、小澤幸子、岡田邦彦: 農村地域における HIV 感染の拡大について: 第 2 報 疫学状況. 第 56 回日本農村医学会学術総会. 2007. 10. 11-12. 長岡
  13. 小澤幸子、高山義浩、四本美保子、斎藤博、北野喜良、山崎善隆: 長野県エイズ治療拠点病院における無料 HIV 迅速検査の受検者動向. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-11. 30. 広島.
  14. 高山義浩: 長野県佐久地域における HIV/AIDS 発生動向と対策. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-11. 30. 広島.
  15. 小島弘敬: 特設検査相談施設の役割. 第 21 回日本エイズ学会. (平成 19 年 11 月 28-30 日、広島)
  16. 小島弘敬: STD と HIV 感染症. 日本性感染症学会, 日本エイズ学会合同シンポジウム. (平成 19 年 12 月 2 日, 東京)
  17. 須藤弘二、宮崎裕美、佐野貴子、近藤真規子、加藤真吾、今井光信. HIV 郵送検査に関する実態調査および検査精度の調査. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会 (2007 年 11 月 28 日-11 月 30 日、広島).
  18. 木村和子、奥村順子、本間隆之、徳田貴裕. HIV 自己検査キットの流通実態. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム (2007 年 11 月 28 日-11 月 30 日、広島).
  19. 日野学. 血液はどこまで安全か. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会教育講演 (2007 年 11 月 28 日-11 月 30 日、広島).
  20. 松浦基夫、岳中美江、岡本学、土居加寿子、榎本てる子、山中京子、藤山佳秀、市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における「結果お知らせ」担当者に対する研修体制. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007 年、広島
  21. 岳中美江、榎本てる子、岡本学、土居加寿子、松浦基夫、山中京子、藤山佳秀、市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における受検者の動向 (2006)、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007 年、広島
  22. 岳中美江、松浦基夫、榎本てる子、土居加寿子、山中京子、岡本学、藤山佳秀、市川誠一: 大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における陽性結果受取から医療機関受診までの期間. 第 21 回日本エイズ学会学

- 術集会・総会、2007年、広島
23. 山中京子、榎本てる子、土居加寿子、岳中美江、岡本学、松浦基夫、青木理恵子：大阪・土曜日常設 HIV 抗体検査が実施する陽性結果受取時カウンセリングに関する検討—専門カウンセラーが意識する支援視点の分析より—、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、2007年、広島
  24. 矢永由里子、野口博文：HIV 対策における電話相談の役割：今後に向けて～エイズ予防財団、電話相談の活動を通して～、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会 2007年 11月 28日（広島）
  25. 矢永由里子：学会シンポジウム HIV 母子感染予防対策の 20 年～現在の医学的・社会的問題点とその対策～、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会 2007年 11月 30日（広島）
  26. 辻麻理子、城崎真弓 長与由紀子他：当院での HIV 感染症患者におけるメンタルヘルスについて、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会 2007年 11月 28日（広島）
  27. 貞升健志、長島真美、新開敬行、甲斐明美、諸角 聖、山口 剛：イムノクロマト法で陰性を示した HIV 検査陽性の 2 症例について、第 80 回日本感染症学会総会、東京、2006
  28. 貞升健志、長島真美、新開敬行、吉田靖子、山田澄夫：東京都内で検出された HIV-1 の Protease 遺伝子の解析、第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2006
  29. 長島真美、貞升健志、新開敬行、尾形和恵、吉田靖子、矢野一好：イムノクロマト法における陽性例と偽陽性例の判定ライン出現時間の比較、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、広島、2007
  30. 貞升健志、長島真美、新開敬行、尾形和恵、吉田靖子、矢野一好：東京都内保健所等の HIV 検査陽性例の血清学的、遺伝子学的解析、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、広島、2007
  31. 田中正大：愛知県においてエイズ検査陽性と確認された HIV 感染者の薬剤耐性 HIV-1 保有状況及びサブタイプ解析、平成 19 年度愛知県公衆衛生研究会（平成 20 年 1 月 18-19 日、愛知県大府市）
  32. 宮崎裕美、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信：ろ紙を用いたドライスポット法による HIV 検査法の検討、第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会、（平成 19 年 11 月 28 日-11 月 30 日、広島）
  33. 加藤真吾「教育講演：HIV 定量法の進歩とその臨床応用（生殖医療への応用）」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  34. 花房秀次、小島賢一、加藤真吾、兼子智、高桑好一、久滋直昭、木内英、加藤克則、吉村泰典、田中憲一「HIV 感染者夫婦の生殖補助医療」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  35. 木内英、岩室紳也、近藤真規子、今井光信、花房秀次、加藤真吾「母子感染予防における出生児への HAART の安全性の検討」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  36. 田中理恵、栗原健、杉浦互、加藤真吾「HPLC によるダルナビルの血中濃度測定法の開発」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  37. 加藤真吾、田中理恵、井土美由紀、林邦彦、今井光信「HIV-1 RNA 定量キットのコントロールサーベイ」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  38. 加藤真吾、須藤弘二「LC-MS による薬剤耐性変異の検出」第 21 回日本エイズ学術集会（2007 年 11 月 28-30 日、広島）
  39. 上西理恵、正兼亜季、近藤真規子、長谷

- 彩希、廖華南、小野木成美、今井光信、上田幹夫、相良裕子、花房秀次、加藤真吾、草川茂、武部豊「CRF01 とサブタイプ B からなる新規組換えウイルス株 (URF) の同定とその公衆衛生学上の意義」第 21 回日本エイズ学会学術集会 (2007 年 11 月 28-30 日、広島)
40. 杉浦互、瀧永博之、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、伊藤俊広、原孝、佐藤武幸、石ヶ坪良明、上田敦久、近藤真規子、今井光信、貞升健志、長島真美、福武勝幸、山元泰之、田中理恵、加藤真吾、宮崎菜穂子、岩本愛吉、藤野真之、中曾根正、巽正志、椎野禎一郎、岡慎一、林田庸総、服部純子、伊部史朗、藤崎誠一郎、金田次弘、浜口元洋、上田幹夫、正兼亜季、大家正義、下条文武、田邊嘉也、渡辺香奈子、白坂琢磨、栗原健、森治代、小島洋子、中桐逸博、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎「2003-2006 年の新規 HIV-1 感染者における薬剤耐性頻度の動向」第 21 回日本エイズ学会学術集会 (2007 年 11 月 28-30 日、広島)
41. 栗原 健、吉野宗宏、佐野俊彦、小島賢一、日笠 聡、杉浦 互、白阪琢磨：拠点病院における抗 HIV 療法と薬剤関連アンケート調査結果 (第 4 報) . 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
42. 中里俊文、高村 齊、大出裕高、清水 愛、杉浦 互、星野忠次: L90M 変異体に阻害作用をもつ抗 HIV 薬の設計・合成. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
43. 羽生勇一郎、山本紀生、日吉真照、黒崎直子、石川晃一、松田昌和、岡田誠治、杉浦 互、山本直樹、高久 洋: shRNA, decoy RNA 共発現レンチウイルスベクターによる HIV-1 複製阻害効果の検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
44. 岩谷靖雅、杉浦 互: HIV-1 NC と APOBEC 3G の逆転写反応への作用 . 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
45. 松山 翔、大出裕高、柿澤淳子、杉浦 互、星野忠次: 臨床検体由来 Subtype C HIV-1 protease の薬剤耐性機構に関する構造化学的研究. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
46. 柿澤淳子、松山 翔、大出裕高、星野忠次、大高泰靖、岩谷靖雅、西澤雅子、Rajintha Bandaranayake、Celia A Sciffer、杉浦 互: CRF01\_AE とサブタイプ B のプロテアーゼの構造解析. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
47. 長谷川直紀、杉浦 互、任 鳳蓉、松田昌和、柴田潤子、田中 博: HARRT 下における連続サンプルを用いた経時的な HIV の宿主内進化解析. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
48. 柴田潤子、任 鳳蓉、西澤雅子、藤野真之、松田昌和、岩谷靖雅、杉浦 互、田中 博: 抗 HIV 薬剤投与下における protease と Gag の共進化に関する研究. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
49. 吉田いづみ、西澤雅子、藤野真之、仲宗根 正、岩谷靖雅、長谷川直紀、柴田潤子、杉浦 互、任 鳳蓉、田中 博: HIV-1 env 遺伝子の多様性進化. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
50. 近藤真規子、宮崎裕美、須藤弘二、佐野貴子、倉井華子、相楽裕子、岩室紳也、杉浦 互、武部 豊、今井光信: 日本で流行している HIV-1 サブタイプ B の diversity. 第 21 回日本エイズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島
51. 藤野真之、三浦秀佳、西澤雅子、松田昌和、鈴木寿子、杉浦 互、プロテアーゼ阻

害剤耐性 HIV-1 株に対するダルナビルの  
有効性についての解析. 第21回日本エイ  
ズ学会学術集会. 2007. 11. 28-30, 広島

# 図1 HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究

目的：HIV検査相談の機会を活用し、  
HIV感染者の早期発見・早期治療と感染予防・感染拡大の防止を計る。

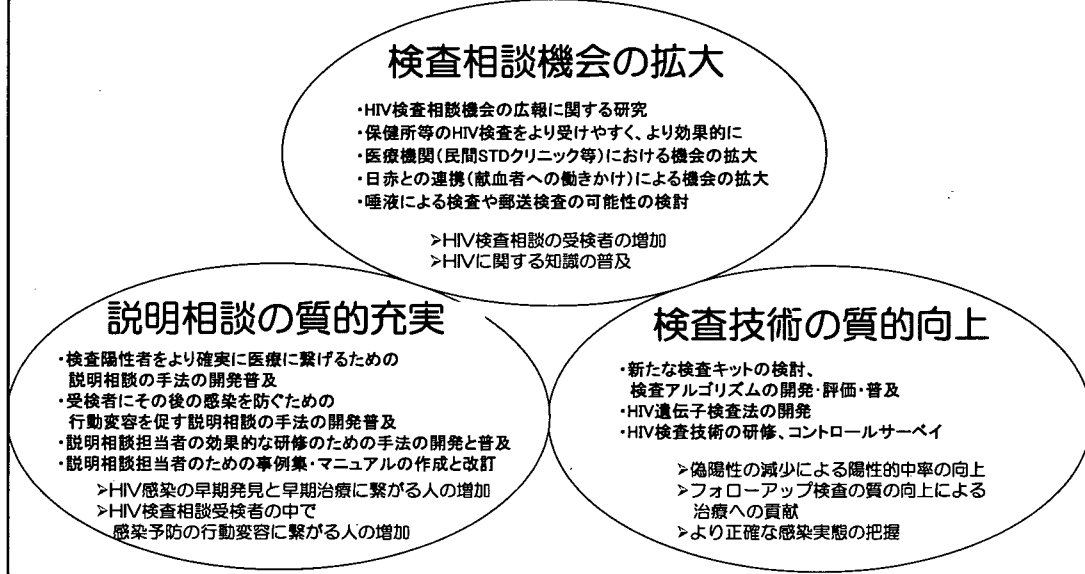


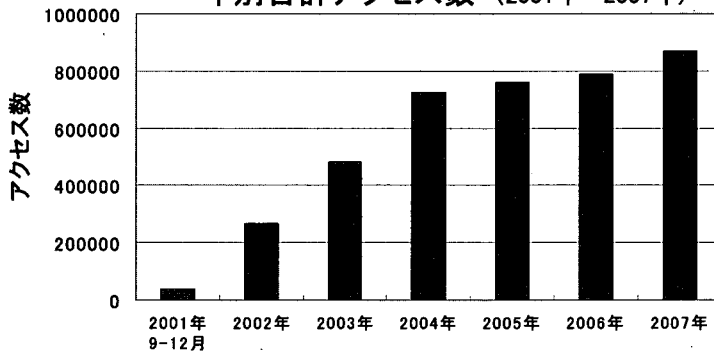
図2

**ホームページ**  
**HIV検査・相談マップ**  
<http://www.hivkensa.com>

2007年12月現在  
1日平均アクセス数  
約2400件/日

2001年9月からの  
合計アクセス数  
400万件

年別合計アクセス数 (2001年～2007年)



2007年  
総アクセス数  
約90万件



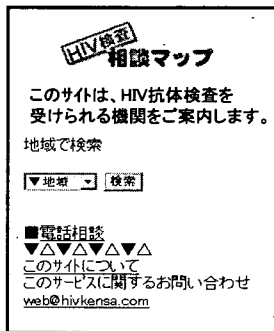
図3

## 携帯電話版サイト HIV検査・相談マップ

<http://www.hivkensa.com>

2007年12月現在  
1日平均アクセス数  
約1100件/日

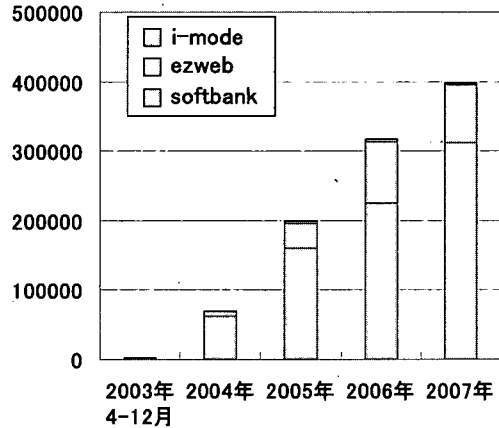
2001年12月からの  
合計アクセス数  
100万件



2004年3月より  
全ての携帯電話で  
(i-mode, ezweb, softbank)  
アクセス可能

## 年別合計アクセス数

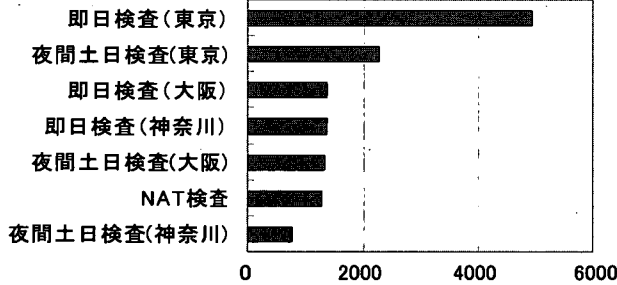
(2003~2007年)



2007年  
総アクセス数 約40万件

図4

## 各カテゴリーへのアクセス数 (2007年12月分)



即日検査 土日夜間検査  
人口の多い  
大都市の検査機関 等

検査希望者の  
ニーズの把握

## 詳細ページアクセス数 (2007年12月分)

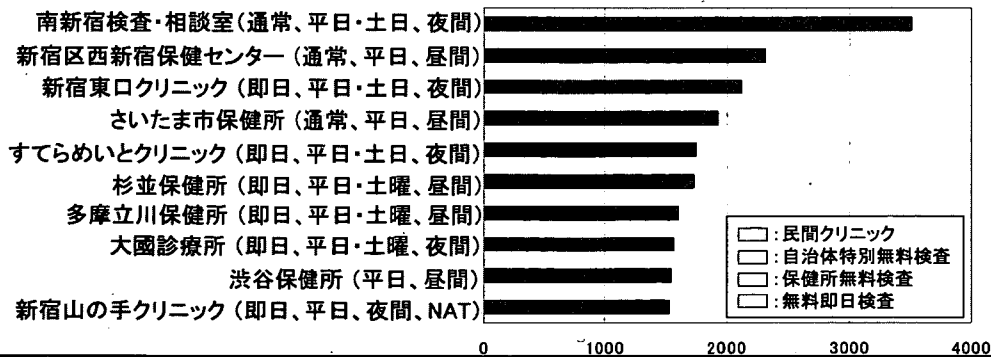


図5

平常時・突発時におけるアクセス数の変動  
 (アクセス数による) インパクト・効果等の評価

HIV検査・相談マップ アクセス数 日別推移 (1日平均 約2400件)

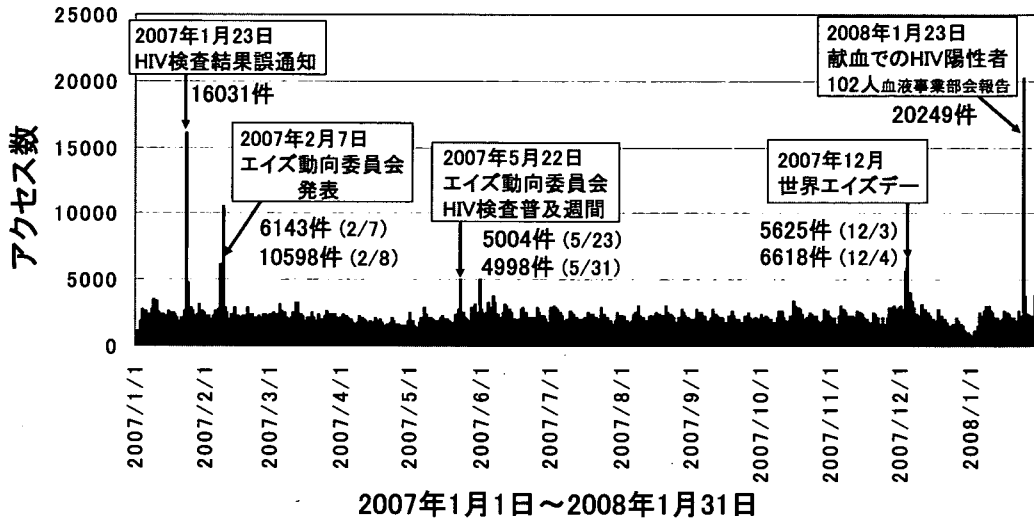


図6

保健所等におけるHIV検査体制に関する  
 全国調査の結果 (2008年1月31日依頼)

HIV検査相談  
 研究会

保健所アンケート 回答数 (H20.4.2現在) 568 / 618箇所 (92%)

2007年にHIV検査を実施した保健所 566 / 568箇所 (99.6%)

2007年に陽性結果のあった保健所 130 / 568箇所 (23%)

陽性件数 279 / 117,521 (陽性率 0.24%)

陽性結果を伝えられた件数 → 264 / 279 (95%)

受診したことを把握できた件数 → 223 / 279 (80%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 114587 / 117242 (98%))

図7

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果 (2008年1月31日依頼)

特設検査機関アンケート 回答数 (H20.4.2現在) 11 / 11箇所 (100%)

2007年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 11 / 11箇所

陽性件数 195 / 24684 (陽性率 0.8%)

陽性結果を伝えられた件数→ 180 / 195 (92%)

受診したことを把握できた件数→ 141 / 195 (72%)

(陰性結果を伝えられた件数→ 23943 / 24489 (98%))

図8

## 保健所HIV検査 — 即日検査と通常検査 —

(566件中)

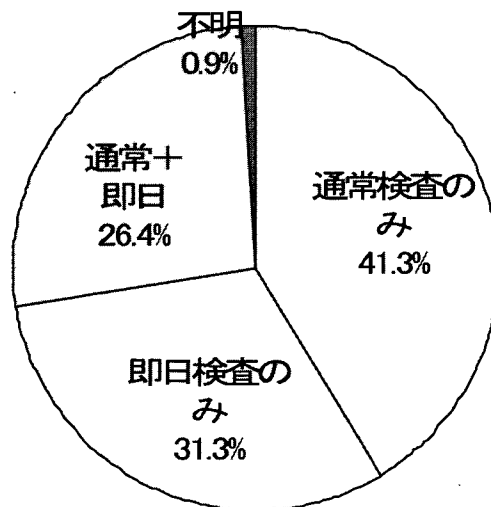


図9

### 保健所HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —

(566件中)

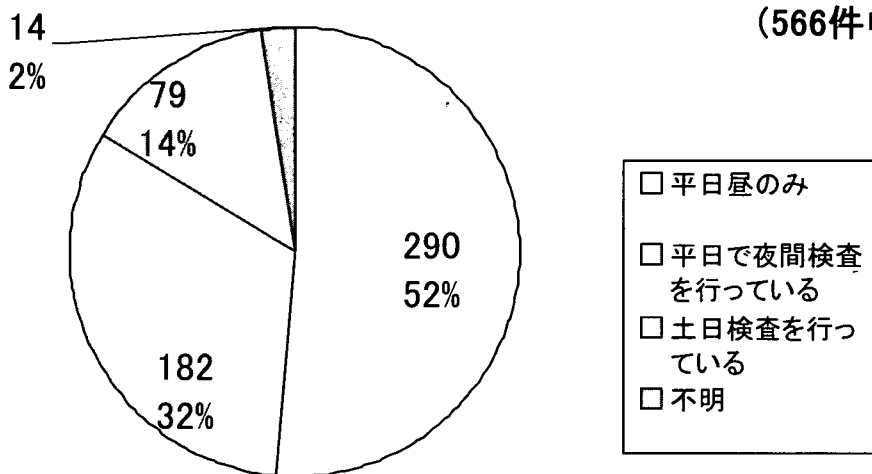


図10

### 各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

